令和元年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人	代表者	峯﨑俊雄
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所　えがお	管理者	青木大樹

法人・事業所の特徴	ご利用者はもとより、働く職員やボランティアの方々が「笑顔」で業務や活動ができる施設になるよう取り組んでおります。また、ご利用者の方々が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	3人	人	8人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	改善計画は､職員一人ひとりに浸透させ、スキルアップを目指します。	職員間での申し送り、連絡ノートの活用で、情報の共有が出来た。	自己評価は難しいと思うが、振り返りは大切な事だと思うので、ぜひ今後も全スタッフを対象に取り組んで下さい。	職員会議・カンファレンス等の話し合いの中での積極的な意見の交換・情報の共有・報・連・相の徹底を図る。
B．事業所のしつらえ・環境	普段利用する方々が楽しく快適に過ごせる様､今後も状況に合わせた改善を継続していく。	柔軟な利用の対応が出来た。	インフルエンザ等や感染症の施設内感染等において気を付けて下さい。	整理整頓・美化・衛生面を常に心掛け、快適な居場所とし居心地の良い施設作りに力を入れる。
C．事業所と地域のかかわり	地域行事への参加をより積極的に行います。	社協のオレンジカフェに参加は出来たが、その他の地域行事へは、参加出来なかった。	地域の祭り等に参加できる場合は、問い合わせるべきであると思う。発信することで、地域の方々が考える機会を得る形で成功した行事もある為、発信が重要と考える。	今後も地域の会議・行事等に参加し、積極的に関わりが持てるようにしていく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者様だけに関わるのではなく、地域の方々からの相談も受けられるように、地域との関係を密にする。その際には、プライバシーに配慮しながら､民生委員の方や地域の方々と協働する。	利用者からの相談には対応出来たが、民生委員の方や地域の方々との相談が密に取れなかった。	地域の中での暮らし方は様々で、難しい課題だと思うが、地域を知る意味でも色々な方との協力をお願いします。	１人１人の暮らしを支えている地域資源の把握をひとつでも増やしながら、利用者が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめる様取り組む。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議だけではなく､地域行事にも他職員も参加をして意見や情報を共有いたします。	地域行事に参加する事が、出来なかった。	運営推進会議に、ご利用者を参加させている事業所もある為、委員の方に毎回ではなくとも、ご利用者の話を聞く機会を設けてみて下さい。	運営推進会議において、委員の方から頂く情報を基に、事例検討を行っていく。

F．事業所の防災・災害対策	今後も年 2 回避難訓練を継続して実施いたします。	災害対応マニュアルの随時見直しを今後も継続して実施いたします。	災害対策マニュアル等を、全職員に周知して下さい。 町の防火訓練等に参加もしくは、見学する様な事を、取り入れて下さい。	災害マニュアルを地域と共有できよう働きかけていく。事業所の訓練への参加も呼びかけていく。 今後も年 2 回避難訓練を継続していく。